

**自己の課題に気づき、解決に向けて
思考し、判断する子**

～「もっともっと」

子どもが夢中になる授業づくり～

令和4・5年度 神奈川県健康・体力づくり実践研究校

相模原市立橋本小学校

1 学校の概要

○クラス数

32クラス（内支援級6クラス）

きこえとことばの教室4クラス

○児童数

857名（R5 5月時点）

○教職員数

約70名

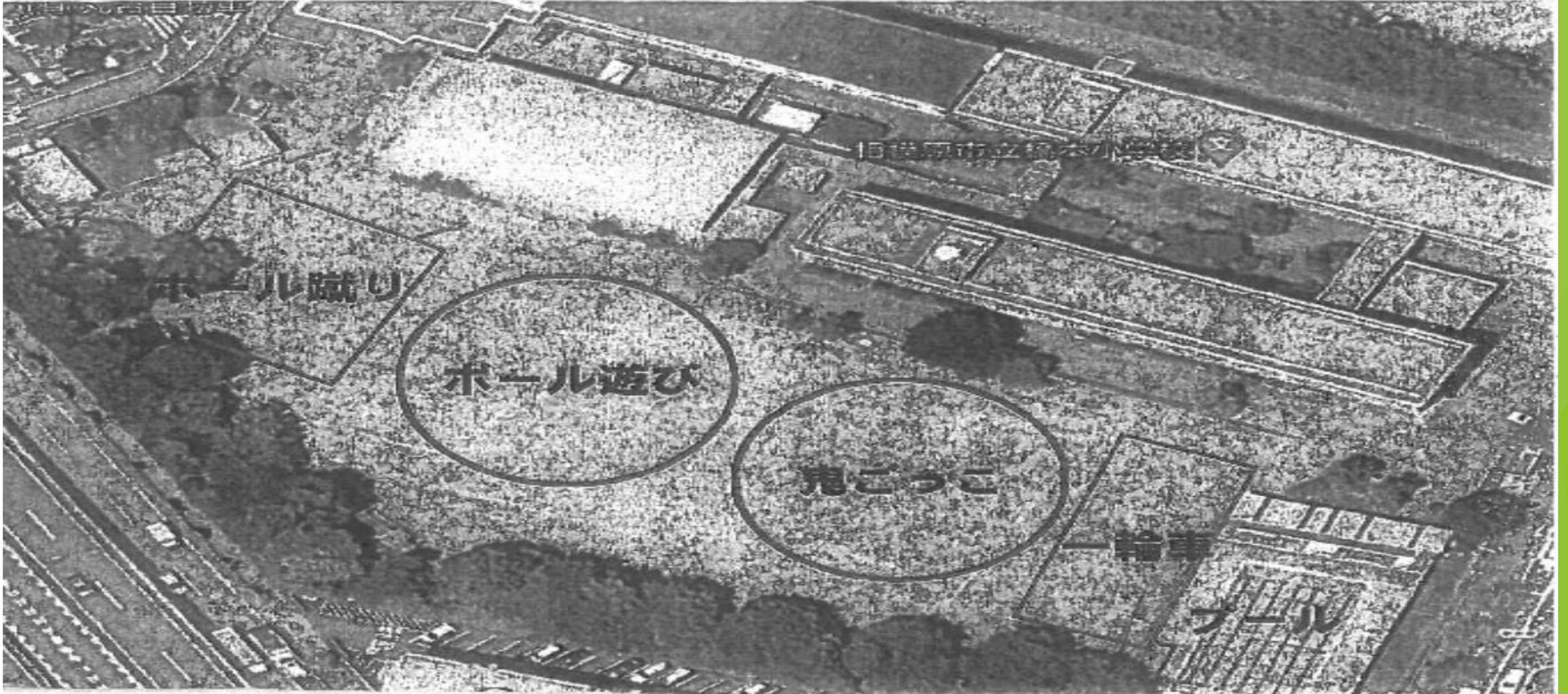
1 学校の概要

○休み時間の様子

校庭を活動ごとに分けて、遊んでいる

- ・ボール蹴り
- ・ボール遊び
- ・鬼ごっこなど走る
- ・一輪車を使う

1 学校の概要 (校庭を活動ごとに分ける)



2 研究の視点

- 子どもが夢中になって運動に取り組むことができる授業づくり
- 具体の手立て
 - (1) 見通し
 - (2) 場作りのくふう
 - (3) 教師の声かけ

2 研究の視点

(1) 見通し

単元のスタートとゴールを意識して
単元指導計画を立てる

○ 1時間目（オリエンテーション）

単元のめあてや流れを子どもに示す

2 研究の視点

(2) 場作りのくふう

子どもが夢中になって運動できる場

○興味をわかせる場

「やってみようかな」「やってみたいな」

「あれならできそうだな」

○関心を高める場

「もっと やりたい」

2 研究の視点

(3) 教師の声かけ

子どもの姿を見取り、その場で声をかける

- 身に付けて欲しい内容について、
子どもの姿で明確にしておく

3 実践 公開授業の様子 3年ゴール型ゲーム



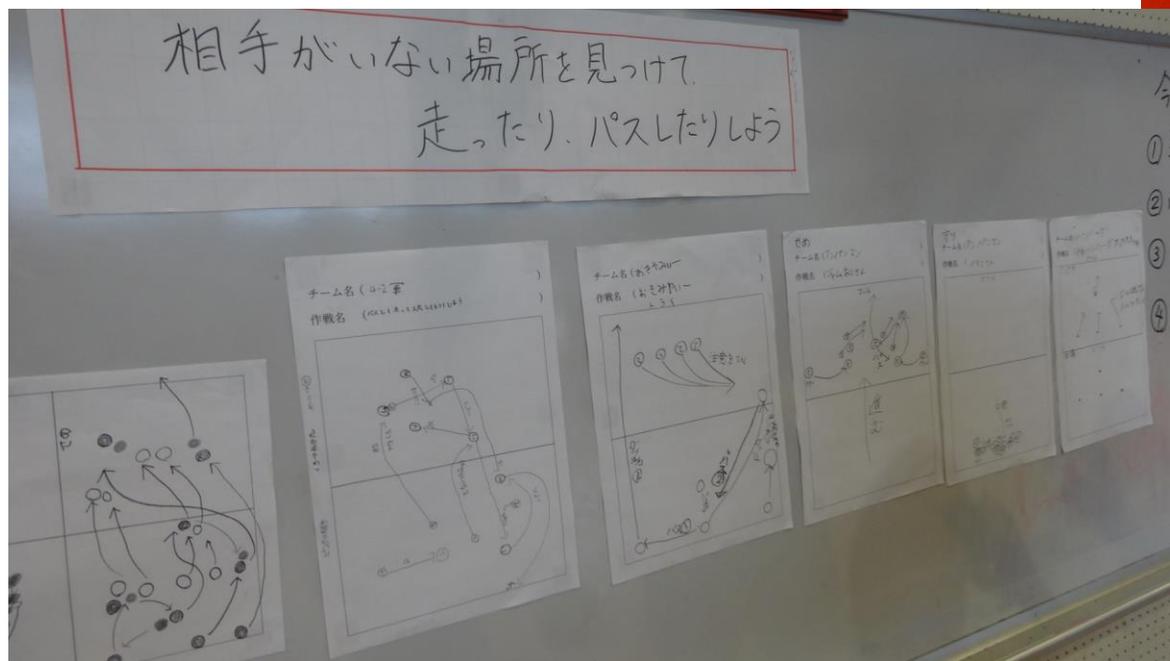
○見通し
ホワイトボードに示す

3 実践

公開授業の様子 5年ゴール型（タグラグビー）

○見通し

自分たちのめあてをもって、学習に取り組む



3 実践 公開授業の様子 2年跳の運動遊び

○場作りのくふう
いろいろな場でやってみる



4 成果

(1) 見通し

子どもと教師が共有できる単元
指導計画の作成

オリエンテーション（1時間目）

- ・単元の流れ（ゴールの姿の共有）
- ・はじめの運動の指導

4 成果

(2) 場作りのくふう

興味

子どもがやってみたい場

関心

子どもがもっとやりたい場

4 成果

(3) 教師の声かけ

身に付けさせたい内容を明確にして、その場で子どもに声かけできた

4 成果 体力テストの結果から

T得点による比較（平成30年度と令和4年度実施）

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール投げ (m)	体力合計点 (点)	
男子	H30	橋本小	46.8	52.0	47.4	51.3	49.6	47.3	45.5	49.7	47.7
		相模原市	50.2	49.1	49.8	47.2	47.9	48.2	47.8	48.6	47.7
	R4	橋本小	51.4	51.7	52.3	48.9	49.7	49.5	51.4	49.4	51.5
		相模原市	50.8	50.4	51.0	46.6	48.9	49.8	48.4	49.3	49.1
女子	H30	橋本小	47.7	52.4	48.7	51.2	45.8	47.1	48.3	46.1	48.0
		相模原市	49.7	48.5	49.8	46.4	46.5	47.9	47.0	47.6	46.7
	R4	橋本小	51.9	49.2	48.8	45.1	45.6	47.0	46.8	47.5	46.6
		相模原市	50.1	49.7	50.1	45.5	46.9	48.9	47.5	48.0	47.3

4 成果 体力テストの結果から

全国、相模原市平均よりも高い数値

○男子

上体起こし、立ち幅跳び

(令和3年度4年度ともに)

○女子

上体起こし、反復横跳び (令和3年度)

握力 (令和4年度)

4 成果 体力テスト質問紙の結果から

全国、相模原市平均よりも高い数値（令和4年度）

- 「体育の授業では、学習に進んで参加していますか」
- 「タブレットなどICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか」

5 課題

(1) 見直し

単元指導計画の見直し

学習の中の子どもの姿で、
計画を見直しながら、技能等
の指導について、考える必要
がある

5 課題

(2) 場作りのくふう

もっと「やってみたい」場

子どもの姿から

用意しておいた場を必然性を
大事にして、提供

5 課題

(3) 教師の声かけ

身に付けさせたい内容について
どう子どもと共有するか

おわり

ありがとうございました